

会 議 速 報

平成 27 年 12 月 28 日

件 名	平成 27 年度第 2 回鹿児島市船舶事業経営審議会	作 成 課	船舶局総務課
日 時	平成 27 年 12 月 11 日(金) 10:00~11:30		
場 所	桜島港フェリーターミナル 3 階大会議室		
出席者	経営審議会委員 8 名 (欠席者 1 名)		
市出席者	船舶局長、次長、営業課長、船舶運航課長、関係職員		
協議・報告等	審議事項 (1) 平成 26 年度船舶事業特別会計決算について (2) その他 (利用状況の報告について)		
主な意見等	<p>○ 決算について、営業収益はなかなかプラスにならないというのが印象だ。桜島の噴火によるマイナス面もあり、営業の方々も努力されておられると思うが、損益をプラスに持っていくのが鉄則だ。厳しい側面もあるが、営業の方々の努力によって結果もついてくるのではないか。</p> <p>→ 営業収益について、営業費用と営業収入を比較すると黒字になっていないという構図はずっと続いており、市議会でも指摘を受けてきた。26 年度からの公営企業の会計基準について総務省が見直しを行った理由の一つは、民間企業と比較しやすくするということであった。民間企業はそれだけ厳しい経営をしているということの裏返しであると思う。営業収益を黒字にするというのは大変難しいことではあるが、努力をしていきたい。</p> <p>○ 平成 26 年度の船舶事業収益の決算を当初予算と比べると、約 2 億 2500 万円の減、8.25%の減少となっていることについて、主に東九州自動車道の延伸等の影響により航送車両収入などが減となったことなどが原因である旨、説明があった。そこで、高速道路、桜島フェリーについて、鹿児島市から鹿屋市までの所要時間や料金をガソリン代も含めて比較するとどのようになるのか。もし、桜島フェリーがよいのであれば、ホームページや市民のひろばなど広報媒体を利用して PR することで車両収益が増加すると思うがどうか。</p> <p>→ 経費的、時間的に、桜島フェリーが安くて早く着くという試算もあるので、今後どのような広報ができるのか考えながら検討してまいりたい。</p> <p>○ 27 年度の錦江湾魅力再発見クルーズの秋期の乗船率と、今後、利用者を増やすための改善策は。</p> <p>→ 秋期には 8 回実施し、乗船率は 41.1%であった。募集開始が 8 月 15 日の桜島の噴火警戒レベルの引上後になったことの影響が大きいと考えられる。一方で 10 月に実施したハロウィン・ミステリークルーズは定員を越える応募があったことから、今後、そのような面も含めて工夫をしていきたいと考えている。</p> <p>○ フェリーの利用状況の減少について、東九州自動車道の延伸の影響が大きく出ており、鹿屋まで行く方法について、陸路に勝つ方法というのではないと思う。桜島フェリーに乗船してもらうには、鹿屋までの間に何か魅力的なものがないか、例えば、今、道の駅が活気を呈しており、市来や吹上などの道の駅に負けないような魅力を醸成する努力がなければ、いくらフェリーについて議論しても利用率は上がっていかないと思う。</p> <p style="text-align: center;">《次頁に続く》</p>		

○ 鹿児島島の観光客が増加の傾向のなかで、鹿児島島を代表する景勝地の桜島の観光が減ってるということはやっぱり残念だと思う。今朝、1,300人の高校生がランニングの学校行事で桜島へ渡航していたが、若い子供のうちから桜島というのが身近に感じられるような営業など、人が集まるような魅力のある、文化が育つようなイベントみたいなものが大事になっていくのではないかなと思う。

噴煙を上げる桜島も鹿児島島の魅力の一つとなっている。噴火しているから落ちるとか一喜一憂せずに、桜島が噴火することによるメリットというのも考えながら、今後なんとか人が集まるものを、「もの」ではなく、人が集まる魅力ある案を模索していったほうがいいと思う。

○ 桜島の噴火に対して、県外の方と我々とは安全に対する感覚が違うと思う。桜島フェリーのなかでも、アナウンスやスクリーンによる掲示など、簡単なものでも構わないので、安心感を与える工夫を考えていただけたらと思う。

○ 桜島フェリーは、車で乗っていただくというのが一番の収入源だが、現在、かなり厳しい状況なのではないかなと思う。これまでとは明らかに状況が変わってきており、これを微々たるものと考えられない状況だ。今後の審議の重要なものとなると思う。本日、様々な意見が出てきているので、次回の審議会でも、その後の利用状況を見ながら議題として審議していきたい。